

# 湘南発！産学連携の「現状」と「これから」

12月2日（水）グランドホテル湘南にて第三回湘南地域懇談会を開催。湘南発！産学連携の「現状」と「これから」をテーマに、約110名が集まった。冒頭、高橋会長より、産学連携は地域別に差はあるものの本格的にやる時代が来ている。日本は今、大転換期であり「連携」というより「共働」で具体的PJTを推進しないと生存競争に勝てない。小さく産んで大きく育てるがキーワードになる。「小さなPJTを大事にしてキメ細かい質の良いものを創る・育てる・波及させることが勝つ為のコツである」と挨拶があった。

### 【基調講演】

#### 「産学連携に期待するもの、期待されるもの」

慶應義塾大学知的資産センター所長 羽鳥 賢一 氏

産学連携ではオープンイノベーション（基礎研究等に外部のリソースを積極的活用）がグローバルに進行、世界的潮流になっている。このオープンイノベーションでの最適組み合わせにより、スピードが速くなる、コストを最小限に抑えられる。これまでの改善・改良型のビジネスモデルから今後はイノベーション型のビジネスモデルへ意識や社会を変えていくことが重要で産学連携こそが日本の生き残る道であると大胆に語って戴いた。

### 【パネルディスカッション】

#### 司会

神奈川県産業技術センター 所長 馬飼野 信一 氏

#### パネリスト

(株)音力発電 代表取締役 速水 浩平 氏

(社)地域活性化協議会 理事長 大久保 隆 氏

(株)日本エレクトリック 代表取締役 松波 登 氏

(株)山川機械製作所 代表取締役社長 小川 敦 氏

慶應義塾大学知的資産センター所長 羽鳥 賢一 氏

慶應藤沢IVチーフインキュベーションM 北原 拓也 氏

司会の馬飼野氏より産学連携を実際に進められている各界代表の方々に産学連携の現状はどうなっていて、解決すべき課題は何か、更にこれからどう展開して行くのが望ましいかなど課題提起あり、知恵を出し合った。



### ～産学連携で成功して行く為のポイント～

速水氏：自社の特徴は何か？慶應藤沢IVで支援・サービスは何ができるか？など、それぞれの「特徴」を活かすこと。またお互いに役割が明確であり、その役割をきちんと果たしていること。本当の意味で産学共働が大事である。

北原氏：自分が何が強いのか？何が欠けているのか？をまずしっかり知ること。それを正直に相手に伝えること、求める力・訴える力・真剣にやる力が原動力になる（＝ゆるい連携）。緊密な関係になるベースのところの「ゆるい連携」の環境を我々支援機関は作りたいし、それを活用して欲しい。

羽鳥氏：ネットワーク（＝ゆるい連携）は最初のきっかけを作るために有効であり色々な意味で必要である。成功して行く為には、ベンチャーに共通するが背水の陣で、やり遂げることが必要。また資金は公的支援（政府、県 etc）をうまく活用すること。一番は本当にやり遂げる熱意が大事で中途半端は失敗の基になる。

馬飼野氏：本気でやり遂げる熱意・気持ちで、自分は何が必要か（求める力・訴える力・真剣にやる力）を出して行くことにより本当の意味で信頼関係（緊密な関係）が出来てくるし成功のポイントになる。

etc、以上の様な本音の話が随所に見られ、活発なディスカッションとなった。

最後に地域活性化委員会・早川委員長より、閉会の挨拶を戴いた。